

## 第1回 学校運営協議会記録

### 1. 学校長挨拶

### 2. 委員委嘱

- A : 元大学職員、元府立高校校長、学識経験者。
- B : 平野区在住。元府立高校校長・教育センターにも勤務。
- C : 障がい者福祉サービスの施設長。
- D : 松原市内小学校校長。
- E : 松原市内中学校校長。
- F : PTA 会長。

### 3. 委員自己紹介

### 4. 会長選出 A氏

### 5. 令和年度 学校経営計画

「めざす学校像」を定着させるために、3年間変更していない。具体的には、「1. 自己を確立し未来を切り開く力を育成」について、まず、当たり前に登校できるようになることをめざす。「2. 勉強がわかり学んだことを活用できる力を育成」は、学びが活用できること。「3. 人とつながり自ら律する力を育成」は、人間関係の中でコミュニケーション能力を育成し、自律する力をつけること。「4. 生徒の成長に喜びを見出し、向上心に溢れる教職員の育成」は、教員集団自らが、教育課題に向き合い、生徒をより深く理解する力を高め合えること。4項目をそれぞれの目標について、取組みを実施する。

新しい学習指導要領に対応した教育活動へも言及している。小・中・大学は学び方が変わっている。文科省には、大学入試改革を梃子に高校教育を変えようというねらいがある。大学入試は、テストでの学力だけでなく、高校時代に何を学んできたのかを評価する制度に変わる。例えば、学習歴をコンピュータに入力し、大学が入試選抜にそのデータを活用する「JAPAN e-Portfolio」がある。本校でも記録簿を作って対応できるようにしている。主体的・対話的で、深い学びを実践するための教員研修にも踏み込んで記述した。

中期的目標の「1(1)規律ある高校生活の実現」について、本校の特徴として遅刻より欠席が多い。「休まず、登校する」ように指導したい。「2(1)新たな学びに対応したわかる授業の研究」は既述。「3(1)ともに学びともに育つ」について、本校には手帳等所持生徒も多く在籍している。中学校から個別の支援計画引継ぎもある。学校として有効に活用できるように、教育相談委員会で情報共有し、工夫したい。「4(2)働き方改革」については、超勤時間を短縮したい。

### 6. 今年度の目標（分掌等）

広報、1年、2年、3年、教務、進路、生徒会、生徒指導、総務、保健の順で説明。

### 7. 協議及びまとめ

協議員：生徒の教育ニーズは多様化している。検診未受験者の数に象徴されている。先生方の対応にも頭が下がる。「条例」では3年連続定員割れで統廃合の対象であると聞いているが、実態を聞くと苦勞がわかり、助言することができなくなってしまう。主任先生から見て、生徒の実態は変わってきたと思うか。

1年主任：体調面デリケートな生徒も多くなっていると感じる。持病の発作のため車いすで保健室に搬送することがある。

協議員：中学校の生徒数は、減少しているのか？

校長：はい。令和4年に少し増え、それ以降減少し続ける予測。大阪府は地域差ある。淀川以北と大阪市内の一部は増えているが、旧7学区と東大阪は特に減少が激しい。平野高校にとっては特に厳しい状況である。

協議員：私学は、特に生徒の獲得に特に力を入れている。

平野高校は、地域の保護者ニーズにも応えてくれる学校をめざしてほしい。「条例」はどうにもならないのか。

校長：必ずしも全てが統廃合ではないが、難しい。

協議員：これだけ頑張っている中で、一気に挽回して定員オーバーになることは考えにくい。平野高校を統廃合の対象にはならない。

協議員：JAPAN e-Portfolio について、大学の活用は実際どのぐらいか？

2年主任：「活用しない」例が多いようだ。大規模校の大学では、特にその傾向があるようだ。

協議員：3年後を見越すなら、対応せざるを得ない。教員の負担が気になる。

校長：小・中・大学は、この間、観点別評価や少人数による討議の導入を行う等教育の方法が変わった。高校教育がどう変わるかがポイント。文科省は大学入試改革を梃子にして、高校を変えようとしている側面もある。

協議員：地域連携大事。中学としても全面的にバックアップしたい。小学校から中学校校長になって感じたことは、4月～6月のこれまで、私学の進路の先生が多く来校している。生徒用の冊子やパンフレットを配っている。平野高校のパンフレットがよくできているので、クラブの写真などをコピーし、教室掲示をするなどのPRができるのではないかと。平野高校生が中学校へクラブ指導に出向いたり、四中フェスタなど地域の集いに参加させてみてはどうか。書道部のパフォーマンスは有名だと聞いている。

最近、高校選びが私学志向に増えている。授業料無償化が大きな要因であると考え。「公立高校」に行くメリットを感じなくなっているのではないかと。提案だが、「面倒見の良い平野高校」をもっとアピールしたらどうか。先ほどの報告で、不登校生徒に朝夕2回の家庭訪問している例を聞いて驚いた。平野高校は若手の先生も多くフットワークも軽いので、「しんどい状況の生徒も、3年間しっかり見ます。」と、ポジティブに明るく元気に語ったらどうか。

協議員：今日は小学校として、お礼を言いたい。先日もビオトープにて、小グループの共同学習をして頂いた。普段、自由で活発な小学生に対して、平野高校の生徒がやさしく上手に関わっていた。いつも感心する。小学校にとっても、平野高校が無くなったら困る。

協議員：普段、障がいのある方々と仕事している。手帳取得生徒など、デリケートな生徒にとっても安心して安全に学校生活が送れるようにして欲しい。「ともに学び、ともに育つ」の目標を、是非実現できるよう協力したい。

平野高校の特徴として、「人間福祉コース」「環境科学コース」に触れられていないのではないかと。パンフレットなどからも、伝わるようにしたらどうか。

首席：人間福祉コースには、「人間と福祉」という平野高校オリジナルの授業があり、先週も老人ホームにレクリエーション実習に行ってきた。12月には、幼稚園に行く予定。希望者は介護職員初任者研修も受講できる。130時間の大変な講座だが、本年度は10人が受講している。この協議会では、他の情報も多いので、報告は省いた。学校説明会では、写真などを用いながらアピールしている。専門コースの価値に改めて気がついた。今後、工夫したい。

教員：環境科学コースでは、畑作りや、ビオトープを利用した授業も展開している。幼稚園や小学校の子どもとの共同学習も行っている。ただ、環境コースの方向性を理科教員だけでまとめるのは難しく、ビオトープの運営を今後の課題だと考えている。

## 8. まとめ・閉会の辞

教頭：平野高校の発展が、生徒自身を成長させることに繋がると思う。今日頂いた意見について、良い点とご指摘いただいた点を今後活かして生きたい。

次回は10月16日（火）。ご予約ください。